

事業報告書

1 事業名	アンダーコロナにおける「なはまち・うみやま防災連携モデル」調査事業
2 事業実施期間	2021年 7月 ～ 2022年 2月
3 事業目的	<p>災害に向き合う事で、校区を深く知り、校区を越えてつながる</p> <p>【事業を行うことにより解決された課題】 昨年度の「曙小学校区でのアンダーコロナにおける地域防災モデル調査事業」や「感染症拡大と緊急事態下における市民活動連携及びBCP提案事業」における課題は続いており、昨年度の成果も踏まえて、コロナ禍や災害発生後も地域活動や市民活動を強くしなやかに継続できる体制や準備を行う為の社会資源調査やマニュアル整備、協働の体制づくりが引き続き必要と考えています。 課題は以下を設定し、取り組んでいきます。 1「自助のみ/共助のみ/公助のみでは解決できない課題がある」 本事業で調査を行うことで横断的に役割や関係性を整理し、地域防災力や行政も含む連携体制の構築を図る機会創造を目的としています。</p> <p>2「コロナ禍や大規模災害などの緊急事態下における対応がイメージできていない」 小学校区まちづくり協議会において防災に興味関心のあるところは多いが、それと同時に何をして良いのか分からないという声を多く耳にしています。専門家による調査設計を行い、小学校区まちづくり協議会を含む協働先と連携したアンケート調査や定期的な情報共有/発信を通して緊急事態下における各協働先の対応イメージを共有する取り組みにする事を目的としています。</p> <p>3「コロナ禍においても支援の届いていない人達がいる」 支援メニューがあれば、支援できている状態とは言えず、支援のミスマッチや支援者想定抜け漏れなどもあり、より一層「現場/市民」「地域/コミュニティ」「中間・後方支援組織」「行政」などの支援体制や連携の構築、そして情報共有や共通認識、共通言語が必要となってきました。本事業ではそれぞれの立場からヒアリングを行い、共通認識や共通言語を作っていく調査事業にする事を目的としています。</p>

4 公益性	<p>【市民や地域への社会貢献度について】</p> <p>地域性や環境の異なる小学校区の地域資源、キーパーソン、拠点、各支援団体および行政との連携、避難者別の対応想定など、分析も想定した多岐に渡る調査方法を確立する事で、まず本事業では各小学校区モデルとなる地域防災力の現状可視化が出来ると考えています。また今後は近隣および全域との小学校区連携を想定したマニュアルやエコマップ作成が目指せると考えています。</p>
-------	--

<p>5 事業内容 *具体的に記入してください。</p>	<p>①実施場所：曙小学校区、石嶺小学校区、(銘苺小学校区) ②対象者：各小学校区における関係者及び行政、その他支援組織など</p> <p>③内容 〈調査の流れ〉 本調査事業は「1) プレヒアリング」「2) 調査設計」「3) アンケート調査」「4) 集計/分析」「5) 情報共有/発信」の5つの項目で実施。</p> <p>1) プレヒアリング 調査設計を行う上で必要な想定対象者のリストアップ、調査手法の検討、分析を行う上で必要な調査項目の洗い出しを協働先と連携しながら実施。</p> <p>1-1) プレヒアリング・インタビュー項目</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本調査事業の周知 ・平時の防災活動および災害時想定に関する現状と課題 ・地域やまち協との連携に関する現状と課題 ・被災後のBCPプランに関する現状と課題 <p>プレヒアリング・インタビュー対象者</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 那覇市包括支援センター石嶺 (21.08.19) ● 曙1丁目自治会 (21.09.15) ● オリブ山病院 (21.09.24) ● 那覇第3民児協・野原民生委員 (21.10.06) ● 那覇市包括支援センター安謝 (21.10.11) ● 那覇第1民児協 (21.11.15) ● 曙小校区まちづくり協議会 (21.12.12) <p>1-2) フィールドワーク調査「安謝川水系 うみやま・まちあるき」 (21.12.12)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 地域資源や課題の調査の一環として、3つのまち協メンバーや市民で「うみ」曙小まち協から「やま」石嶺小まち協まで実際に歩いて、地域や地形、安謝川の流域にあるまちの様子を確認しつつ那覇の自然資源や地域文化を楽しんだ。コースは、曙と石嶺をつなぐ安謝川に沿って歩いた。
----------------------------------	--

- コロナ禍によりまち協内部でも会議を持つことが不可能な状況が続く中、3まち協による唯一の交流・協働調査事業として実施できた。まち協メンバーが率先して役割を果たしただけでなく、市の関係職員や市社協職員による主体的参加がなされ、またまち協メンバーがそれぞれの場面で持っている情報を存分に提供するなど、たんなる調査を越えた有機的で濃密な協働作業となった。終了後、3まち協メンバーから、今後もまちあるきを通じたかかわりや他のまち協へのアプローチも行いたいという提案がなされ、次年度以降のテーマとなった。

【コース】

曙小 (AM9:00start) →安謝緑地→安謝橋→安謝川北岸→断層崖
浦添市内間消防署→内間西公園→安謝川北岸→330号トンネル
→

いまいパン (休憩) →末吉西公園→末吉東公園→瑞穂酒造→末吉公園→平良橋→アトリエ種子/河川監視カメラ→遊水地建設現場→石嶺駅→まさひろ酒造→石嶺小学校 (AM12:00goal)

- 参加者：曙・銘苺・石嶺小校区各まち協メンバー、那覇市職員、那覇市社協職員 全40人

2) 調査設計

プレヒアリングにおいて抽出したリストや調査手法、意見などを整理集約し、タイムラインやプリコーションを軸とした個別や比較分析等を想定した調査設計を行った。

2-1) 調査目的

大災害発生時に山側と海側の地域が助け合い、協働および相互支援できるまちづくり・地域ネットワークを構築することを目的として、各小学校区における防災と災害時の対応に関する実態調査を実施する。

2-2) 調査対象

曙小学校区及び石嶺小学校区、銘苺小学校区における以下に関わる組織・機関。

- 災害時要援護者の当事者・支援者に関わる機関 (地域包括支援センター、介護保険サービス事業所、障害サービス事業所、医療機関、学童など)
- 公共的役割を期待される機関 (指定避難所など)
- 住民の支えあい (互助) が期待される機関 (自治会、民生委員児童委員協議会、地域見守り隊、自主防災組織など)

2-3) 調査方法

以下の手順で調査を実施した。

- 各小学校区まちづくり協議会を通じて書面並びに電子メール等による依頼

- webによるオンライン回答および書面での回答

2-4) 調査項目

1. 基礎項目

- 機関・組織名
- 回答者
- 連絡先
- 組織規模
- 所在する小学校区

2. 平時の防災について

- 防災・災害など危機管理に関する担当者（チーム）は配置されていますか
- 災害対応マニュアルやルール、事業継続計画（BCP）はありますか
- 災害/防災に関する協定や連携について教えてください（複数選択可）
- 災害時の備蓄はありますか
- 防災/災害に対する貴機関・組織の状態について、当てはまるものを一つ選んでください。
- 平時の防災の取り組みを教えてください（複数選択可）

3. 災害発生～72時間・3日間程度（避難を要する規模の災害を想定）について

- 災害発生時の支援想定を教えてください（複数選択可）
- 災害発生時に想定している活動を教えてください（複数選択可）
- 災害発生時に誰がどのような事で困ると想定していますか
 - 困難な状況を抱えることが想定されるのは、どのような方ですか？
 - 上記の方は、どのような困難な状況が想定されますか？
 - 上記の状況を回避または改善するために、どのような対応を想定されますか？

4. 復旧（災害発生から3日以降）について

- 復旧に向けて想定している活動があれば教えてください（複数選択）
- 防災や災害時対応に関する目標や課題、現時点で不足していることなどがあれば教えてください

<参考資料：調査頼文>

2022年11月15日

石嶺小学校区

調査依頼文

石嶺小学校区まちづくり協議会
会長 佐野 義典
(ご挨拶)

一帯に於ける
災害時要援護者ネットワーク構築について

アンケートには「石嶺小学校区まちづくり協議会」宛でお願いいたします。
事務局 石嶺小学校区まちづくり協議会
〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1

以下でアンケートの趣旨、対象、実施方法、回答期限、お問い合わせ先等についてご説明いたします。
1. アンケートの趣旨
2. アンケートの対象者
3. アンケートの実施方法
4. アンケートの回答期限

お問い合わせ先
石嶺小学校区まちづくり協議会
〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1
事務局 石嶺小学校区まちづくり協議会
TEL: 03-5561-1111

<参考資料：調査票>

石嶺小学校区まちづくり協議会

アンケート調査依頼文

石嶺小学校区まちづくり協議会
事務局 石嶺小学校区まちづくり協議会
〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1

1. アンケートの趣旨
2. アンケートの対象者
3. アンケートの実施方法
4. アンケートの回答期限

お問い合わせ先
石嶺小学校区まちづくり協議会
〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1
事務局 石嶺小学校区まちづくり協議会
TEL: 03-5561-1111

石嶺小学校区まちづくり協議会

アンケート調査依頼文

石嶺小学校区まちづくり協議会
事務局 石嶺小学校区まちづくり協議会
〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1

1. アンケートの趣旨
2. アンケートの対象者
3. アンケートの実施方法
4. アンケートの回答期限

お問い合わせ先
石嶺小学校区まちづくり協議会
〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1
事務局 石嶺小学校区まちづくり協議会
TEL: 03-5561-1111

3) アンケート調査

上記の2) 調査設計に基づき、石嶺小学校区において、石嶺小学校区まちづくり協議会のネットワークを通じて、アンケート調査を実施した。

3-1) 調査期間

2021年11月25日～2022年2月20日

3-2) 回答者

【石嶺小学校区】

- 災害時要援護者の当事者・支援者に関わる機関（4機関）
 - オリーブ山病院

- 首里第三民生委員児童委員協議会
- 社会福祉法人からし種の会
- みどり保育園
- 公共的役割を期待される機関（2機関）
 - 石嶺小学校
 - 那覇市石嶺公民館
- 住民の支えあい（互助）が期待される機関（3機関）
 - 石嶺小学校区まちづくり協議会
 - 石嶺団地自治会
 - 首里石嶺ハイツ自治会
- その他（1機関）
 - 琉球銀行石嶺支店

4) 集計/分析

<収集したデータ・資料の媒体>

各地域（まち協エリア）のリスク（課題）とリソース（資源）の把握と可視化を目標に、以下の媒体からデータを収集、整理した。いずれもまち協が実施主体となれるよう、データの在り処の提示や手法、フォームの確立と整理を行った。

- ①マップからの読み取り（紙/ウェブ）
- ②図書・文献資料（新聞、市報、市史、字誌、古写真など含む）
- ③統計（行政などが公開しているもの）
- ④那覇市が所有する未開示資料（那覇市に提供依頼）
- ⑤ヒアリング・インタビュー（対面。災害時に地域で何らかの役割を持つ代表的な機関が対象）
- ⑥アンケート調査（紙・ウェブ。災害時に地域で何らかの役割を持つ主な機関が対象）
- ⑦フィールドワークによる実地調査（まち協内/3まち協の協働による「安謝川水系 うみやま・まちあるき」

<集計>

- 当初の事業対象とした曙・石嶺小校区まち協について、①～⑦を実施した結果を集計した。銘苅まち協については、事業途中から災害発生時の安謝川水系における「人・物・情報の集積/前線支援基地」として参画してもらったため、まち協への情報提供のみ行いデータの収集は行っていない。
- ①～④については、同じ項目についての単純比較のほか、「うみ側（曙）」「やま側（石嶺）」の地域特性に比重を置いたデータ収集・分析を行った。したがって、「津波・高潮浸水区域」のように両まち協に共通しない項目も存在する。

	<ul style="list-style-type: none"> ● ⑤については、たとえば曙小校区は地域特性として医療福祉施設が限定されることから曙地区を対象エリアとする銘苅まち協内の機関を対象とするなど、両まち協の特性に沿った対象選定を行い、データを収集した。また、まち協が日常的な地域活動で対象機関から得てきた情報もヒアリングデータとしている。 ● ⑥については、まち協によって組織・人材・取り組み体制が異なることや、コロナ禍による活動制限の度合いが異なることから、あくまでまち協でできる範囲で実施してもらった。地域活動としては年度をまたいで継続していくものであり、現時点で収集・集計していないものも3月以降に実施される。 ● ⑦については、本事業のフィールドワーク調査「安謝川水系 うみやま・まちあるき」を軸に、まち協内で行っている日常的な取り組みを加味する。 <p><分析></p> <ul style="list-style-type: none"> ● ①～⑦の各項目について、項目ごとの分析を行っている。 ● ①～④について、マップ・図書・写真・統計・記録を詳細に読み込み、さらに地域内でのロコミや民生委員等キーパーソンからの情報なども統合しながら各まち協の防災およびつながりづくりに関する特性を導き出している。 ● ①～④で得た、地域の二次元データを元にした客観的な状況に加え、⑤の地域関係機関やキーパーソンの「関わり」、⑥の実態に関するデータを数値化した情報、⑦のまち協メンバーによる「歩き」で得たナマの感覚や風景を前にした「語り」を加味して各まち協の実情を文字化・可視化した。 ● 分析したものを72時間の時系列。、災害時「だれが（被災者）一どうなる」「だれが（支援者）一どうする」に整理し、各まち協内での災害発生から3日間をメドにした動きを明らかにし、各まち協で「足りないこと」「他に提供できること」を整理していく手法を確立、安謝川水系3まち協が連携できる手立てとする。その際、関係機関やキーパーソンの情報を「カード化」する手法など、まち協の活動実態に合わせて取り組める方法を提示する。（3月の作業） ● これらの分析結果や手法について、事業期間中の速報値として、以下の「5）情報共有/発信」の媒体等で市民にも周知している。
--	--

	<p>5) 情報共有/発信</p> <p>情報共有/発信では、事業開始から定期的な情報発信をラジオ等で行い、事業における協働先もゲストスピーカーとして参画して頂いた。また、協働先と連携した情報共有や意見交換の機会を設けた。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) FMなは「Okinawa B-camp」（毎週金曜AM10～11）で定期的に発信。また、これまで2回、「うみやま連携・公開ミーティング」として事業プランや分析内容をリスナーのみなさんに聴いていただき、参加してもらいながら進めた。 2) 琉球放送 RBC i ラジオ「アップ !!」（毎週月～金AM7～10）で9月1日防災の日に特集コーナーを組み、県民にその時点での分析を紹介した。 3) 12月20日なは市民活動支援センターで若狭公民館主催で開催した「防災キャンプフォーラム・『公助』×『共助』ベストの方程式を考える」の中で分析内容について触れた。 4) 2月4日に那覇市まちづくり市民協働推進課の主催でオンライン開催された「校区まちづくり協議会意見交換会」で分析や手法を紹介した。 5) 2月19日の石嶺小学校校区まちづくり協議会・子ども育成部会における調査中間報告・共有と意見交換をはじめとした、曙・石嶺・銘苅まち協がそれぞれ独自開催している定例会や勉強会などにも参加し、速報値での分析結果を伝えている。
<p>6 実現性・感染症対策</p>	<p>【緊急事態宣言等の発令時における活動の取り組み】</p> <p>緊急事態宣言等の発令時においては基本的にはオンラインによるヒアリングおよびアンケート調査を実施を想定しています。オンラインで直接アプローチが難しい対象者については現場支援や同じ組織/コミュニティに属するオンライン対応可能な協働先にヒアリングをおよびアンケート調査を実施して頂く想定をしています。</p> <p>【コロナウイルス感染症対策】</p> <p>上記同様に、調査は基本的にオンラインで行い、オンラインで直接アプローチが難しい対象者については現場支援や同じ組織/コミュニティに属する協働先にヒアリングをおよびアンケート調査を実施して頂く想定をしています。</p>

<p>7波及効果・今後の展開</p>	<p>「6.実施内容」における調査設計及び調査を実施し、調査方法が確立されれば、他の小学校区にも導入や連携を図る事が可能になります。各小学校区においても調査対象を整理し、アンケート調査を実施する事で、各小学校区の地域防災力の現状可視化および校区をより細分化した深掘り調査が可能になり、ひいては近隣および全域との小学校区連携を想定したマニュアルやエコマップ作成が目指せると考えています。</p> <p>曙小学校区まちづくり協議会（稲垣）</p> <ul style="list-style-type: none"> ● これまでの構成する地縁組織の課題（自治会が実質的に町内会ひとつしかなく「自治会空白域が占める」など）や主軸となる取り組みテーマ、メンバーの年齢等の理由で、防災に関する取り組みがやや手薄だった。そこに、コロナ禍による活動制限が加わり、本来は災害リスクが高い地域であるにも関わらず、防災まで手が回っていなかった。本事業を通じて、まち協メンバーの意識が大幅に向上し、さらに唯一地域住民が集まるセンター的役割を果たす曙小学校との防災連携も進んだ。 ● 事業が進むにつれ、これまでつながりがなかった輸送や海運など地域特性となっている企業から防災面での連携の声も上がるようになってきた。これらまち協内に所在する企業や企業組合は県や自衛隊などとさまざまな防災協定を結んでおり、那覇市における海の玄関口のひとつである曙小学校の強みを、防災だけでなく地域つながりや子ども支援などの場面でさらに強化できる期待がかかる。 ● また、曙まち協が単独で行ってきた「パーラー公民館」が、調査事業である本事業で得た成果をまち協内および3まち協によって実践する場として機能できつつある。今年度に関しては、コロナ禍による対面活動の制限で思うように進まなかったが、次年度以降の協働に大きな可能性を感じている。 <p>石嶺小学校区まちづくり協議会（宮道）</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 昨年度より取り組んでいる「いしんみ防災勉強会」からのつながりが本事業もつながっており、石嶺小学校区の地域防災の資源と課題が一部明らかとなった。次年度以降、より広く深く調査していく、足がかりを得た。 ● 次年度以降、石嶺小学校区での地域防災力を高めていくための重点課題として、以下の点を石嶺小学校区まちづくり協議会・子ども育成部会において整理した。 <ul style="list-style-type: none"> ○ <u>各家庭（世帯）における自助力を高めること</u>
--------------------	--

	<ul style="list-style-type: none"> ■ 例：家具の転倒防止、家庭内備蓄（食材・調理器具・水・バケツなど）、まず家の外に出るための訓練など ○ <u>避難行動に関すること</u> <ul style="list-style-type: none"> ■ 例：避難する場所の情報整理、避難ルートの確認まちあるき、避難行動に支援を要する人の支援体制の検討、分散避難・在宅避難について、高層集合住宅での避難など ○ <u>避難所での生活に関すること</u> <ul style="list-style-type: none"> ■ 例：避難所の運営や福祉避難所についての理解、避難所運営訓練（イベント）、炊き出し訓練など ○ <u>校区内の地域資源と地域課題の情報収集・整理</u> <ul style="list-style-type: none"> ■ 例：アンケート調査の継続、マップへの情報の落とし込み、「石嶺小学校区防災計画」（地区防災計画）の作成など <ul style="list-style-type: none"> ● 上記の重点課題について、優先順位を検討しながら、校区まち協子ども育成部会だけでなく、校区まち協の他の部会、PTA、自治会、民生委員協議会などと連携しながら取り組む 	
8 その他の反省点など	<p>コロナ禍で計画通り進まなかった点や、地域の人的リソースによっても防災や調査に対する活動に制約がある為、より綿密な調査手法の確立やマニュアル化、人材育成等が反省点として考えられる。</p>	
9 スケジュール (なるべく詳細に記入してください。予定でかまいません) (宮平)	<p>時期</p>	<p>内容（場所・参加対象・人数など）</p>
	7月	<p>7/1よりほぼ毎週のミーティング及びコミュニティFMによる情報発信を実施。調査要領作成 及びプレヒアリング調査の準備を進める。また本調査に向けて7/29に那覇市まちづくり協働推進課(以下協働推進課)とのミーティングを実施。参加者は災害プラットフォームおきなわ(以下 DMPO)、曙・石嶺の両小学校区まちづくり協議会(以下まち協)、各まち協担当者で、調査事業における目的の共有や役割分担などを行った。</p>
	8月	<p>プレヒアリング調査スタート。那覇市地域包括支援センター石嶺、若狭公民館などに実施したが、感染症拡大がピークだった為、その他は9月以降となり、計画よりも遅れが出た。また今回の調査事業では、プレヒアリング調査および本調査としていたが、専門家との検討の結果、ヒアリング</p>

		調査およびアンケート調査の二本立てで進めていく事になった。
9月		9/1にRBC iラジオ「アップ!!」に宮道・稲垣出演。なはまち・うみやま連携について紹介。 ヒアリング調査内容をアンケート調査内容に反映。9/15に曙1丁目自治会へのヒアリング調査を実施。9/16には再度協働推進課とのミーティングを行い、データ提供に関するやり取りを行った。9/24にはオリブ山病院へのヒアリング調査実施。
10月		10/6はオンラインにて那覇市第3民児協、10/11は包括支援センター安謝へのヒアリング調査を実施。ヒアリング調査及びアンケート調査内容決定に遅れが出た為、再度計画を改め、まち協によるアンケート調査スタートを11月後半にし、集計を12～1月、分析を1～2月とした。10/18には 銘苅まち協への情報共有会議を実施。
11月		11/1にDMP0、協働推進課、防災危機管理課、各まち協担当者とのミーティングを実施。地域主体の防災を支える為に必要な地域分析や調整手法の在り方やフェーズにおける公助が担うべき役割について議論を行った。その後11月後半のアンケート調査スタートに向けて石嶺まち協と連携し、アンケート調査対象のリストアップや本調査アンケートの説明などを行った。11/15には、那覇市第1民児協へのヒアリングを実施した。しかし曙まち協はまち協主体のアンケート調査ではなく、稲垣や民生委員を中心としたヒアリング調査の方向で進んでいる。11/22は、曙小学校区地域懇親会要支援者個別計画モデル事業にて情報交換も行う。11/30には中間報告書を那覇市に提出した。
12月		12/4に第580回沖縄大学土曜教養講座が行われ、その中で稲垣が、うみやま連携についても紹介を行った。12/12には安謝石嶺まち歩きを実施。終了後に曙まち協とのふりかえりを実施。12/20に防災キャンプシンポジウムにてうみやま連携の取り組みを報告。

	1月	<p>コロナウイルス感染症再拡大や事業関係者の体調不良により活動が鈍化し、石嶺アンケート回収が12月から1月下旬に遅れたが、回収を行った。その後回収したアンケートの集計・分析を行った。</p>
	2月	<p>那覇市データ分析を実施。また、2/4にはまち協意見交換会にてうみやま連携について報告。2/19には石嶺小学校区まちづくり協議会子ども育成部会にて調査中間報告/意見交換を行った。2/28には報告書を提出。</p>